

介護という岩を、一人で背負わなくていい

〔 私たちの想い 〕

なぜ、介護で「嘘のない話し合い」が必要なのか？



介護は、家族の絆を深めるものであってほしい。そう強く思う一方で、現実にはこんな光景をよく目にします。

一人で「介護」という重い岩を背負い、自分の生活や仕事を犠牲にしながら、坂道をひとり歩き続ける人。

親を想う気持ちは、とても尊いものです。でも、その気持ちが、**自分の人生を犠牲にする理由になってはいけません**。私たちが目指すのは、誰も無理をせず、家族みんなが笑って過ごせる「あるべき介護」の姿です。そのために欠かせないのが、「**嘘のない話し合い**」だと私たちは考えています。

なぜ、「嘘のない話し合い」が必要なのか

我慢して本音を隠したまま進む介護は、いつか歪みとなって家族関係に返ってきます。「迷惑をかけたくない」「私が頑張ればいい」——そうした優しい嘘が積み重なるほど、家族は分断されていきます。

介護は、家族を分断するものではなく、絆を深めるものでありたい。だからこそ私たちは、ご本人にも、ご家族にも、遠慮のない本音を話していただきたいと思っています。

スイミーの目になる

BanSow(伴走)は、系列やしがらみのない「独立型」の立場だからこそできることがあります。それは、ご家族専属の「**スイミーの目**」になることです。

物語のスイミーは、体の色が違うから群れの「目」の役割を担いました。私たちも同じように、特定の事業者の系列に属さないからこそ付度なくご家族の立場に立ち、小さな力(ご本人・ご家族・多職種の専門職)を集めて一つの大きなチームを作り、最適なプロフェッショナルとの連携を実現します。

自分に嘘をつかない、という約束

「自分に嘘をついてはいけない」。これは私たちが大切にしている想いです。

ご本人にとっての本当の望みは何か。ご家族が本当に困っていることは何か。取り繕った言葉ではなく、本音から始まる話し合いを、私たちは**何度も何度も**重ねていきます。ご家族の関係性を守りながら、納得できる暮らしを一緒に作っていく——それが、BanSowの変わらない姿勢です。

介護という岩は、一人で背負うものではありません。
私たちが、あなたの専属の「スイミーの目」になります。